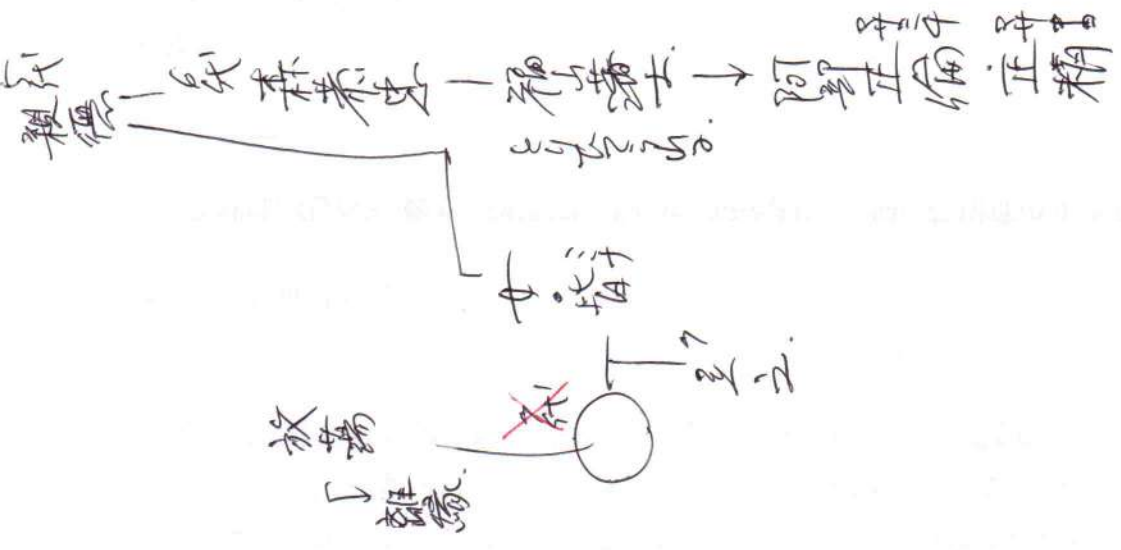


林三之の生涯 I

林三之 1809 ? 1885  
 福山藩士  
 本郷丸山町・阿部公蕃邸内  
 (現・文京区西片町)  
 祖父 林宗純・京都の医師



林三之にのこるものゝ事

林園外

江抽 1805 ? 1857

伊澤陳軒 1777 ? 1829

北條霞亭  
 志摩藩邸  
 文人

津輕藩士 医

福山藩士 医

三之の生涯の友

阿部公

将谷松圃

川中時抽前江に弟子入り

福山丸山至誠館

津輕藩向人「米陶屋」  
 文人 考証家

管茶山

医学 - 市町米庵

将谷松圃

礼記の哥

四書五經

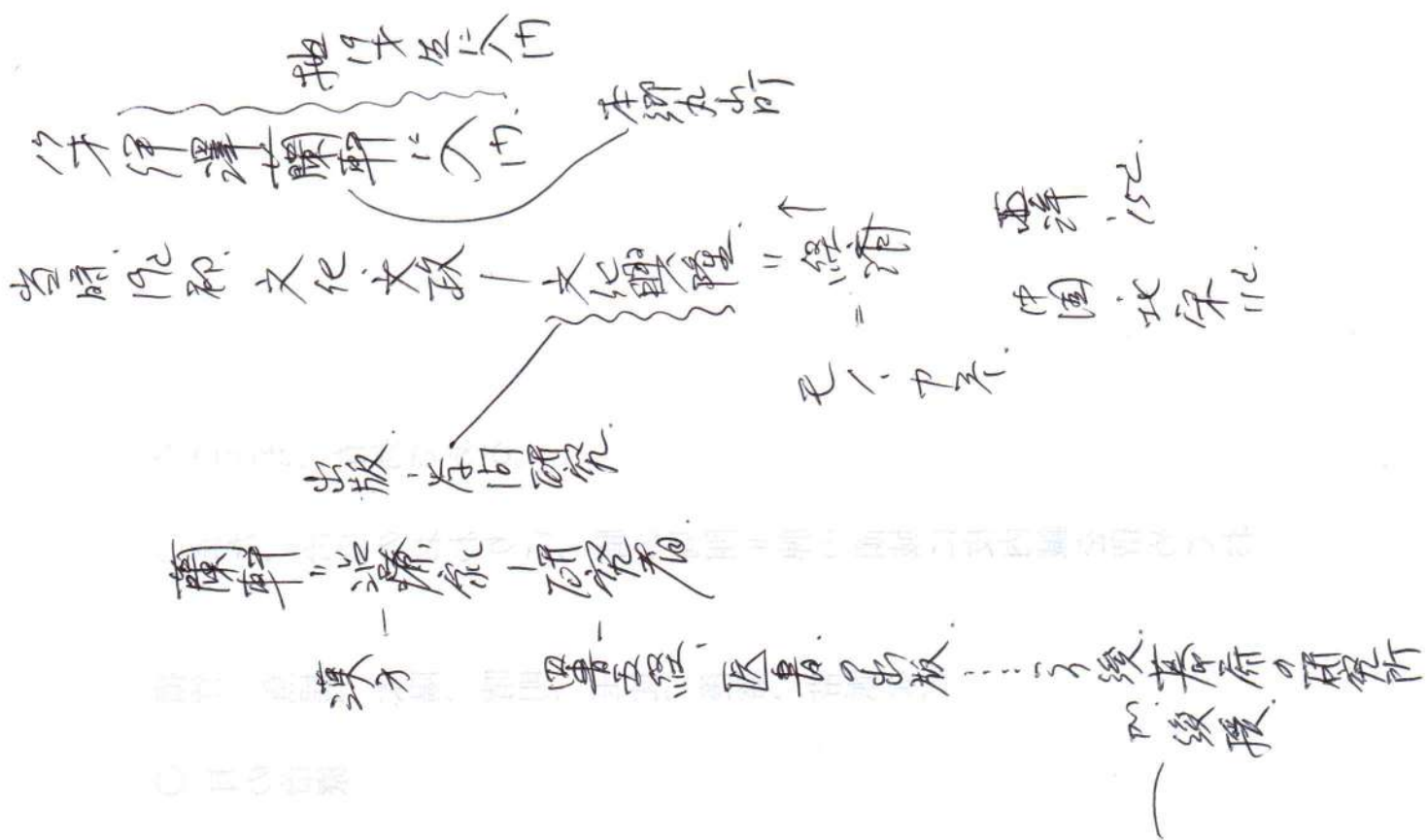
易 詩 礼 書 春秋

書籍 - 金石学

大学中庸

海鏡 孟子

印 硯 金園



日本の経済時代の文化興隆

政府 — 政府

医官 — 医学の官制  
 少府 — 経学を学ぶ

学问 — 漢学全般  
 通曉

中国 — 科挙

随 — 清国皇帝を

進士 — 進士  
 医官に子弟はなつた

実学

# 森立之の生涯 1

文化十二年七月(1815年)

本郷丸山の阿部家中屋敷に移る。(文久二年三月・1862年)

○売家

天下猶お一人の有るに非ず

売過何ぞ惜しまん小園林

頭に担せの図書を得にな挑ないて去る

挑…肩にかかげる、かつぐ

此れは是れ凡夫しゆじき執著の心

○同前(「売家」)後の主人に呈す

構え得たり軒窓優ならずと雖も

却つて月に酔い花を詠じて遊ぶに宜し

竟つひに貧の至りの來たり、錢かに兌かへて去る

後に在る主人あやま尤ならちに效なかう莫れ

文政六年(1823年)

蘭軒(47)、元板千金方(多紀家・元槧本≡官製本台坊本)を影鈔、跋を識す。

「此の本、二十年前、友人狩谷卿雲(稜齋)、余がためにこれを書賈英平吉に購えり。簡編蠹蝕(としよく)、古色愛すべし。繕修して舊に改めんとは欲せず。但だ平生披閱し、愈よいよ壞爛に就はんことを怕(おそ)る。頃日(最近)、關定能を倩(やと)い背装綴緝(てんしゅう)せしめ、跋するに數語を以つてす。

吁(ああ)、余と卿雲と今俱に頰白(半分白髮)の翁と爲る、而してなお孜孜(しし)として書を讀むこと少年の態に異ならず。則ちその世に迂闊なる。固よりまた疑わず、相對するごとに嗤うのみ。信恬(蘭軒の本名)また識す」

文政十年十二月(1827年)

蘭軒、元榎本の千金翼方(原本は多紀氏聿脩堂)の影鈔を了える。

躋壽館(多紀氏の主催する幕府の医学館)に、同書を影刻する議がおこる。

「近頃、醫官諸君、醵金してこの本を影刻するの挙あり。正學の餘惠、後代に被(およ)び、その徳は浹渥(しようあく)なりと謂らべし。そもそも崇文盛化の致す所は、豈に欽び仰(あ)がざらんや。それ此くの如くなれば則ち爾後善本の刻有るもの、日一日と多からん。余の蔵するは多く抄本なり。子孫、刻本の得易きを以つて、家藏を輕視せんことを恐る。因つて仔細にこれを記す」

蘭軒、書の銓擇せんたく(銓・えらぶ)に言及す

「書を蔵すには宜しく銓擇を努むべし。始め識見ありと爲すや、銓擇に  
一派あり。逸書を好み奇文を愛し、世に絶えて少なき所の者は、兔園稗  
史とえんはいと雖も、必ず搜してこれを得、これ好事藏家の銓擇する所なり。その  
(正學藏家の)蔵する所は緊要必読の書を過ぐることなし、然も皆、古刻  
舊抄、審らかに眞本を定めてこれを蔵す、これ正學藏家の銓擇する所な  
り。これを要するに醇じゆん濃厚な醜しゆうりうすいの別ありと雖も、識見ある  
に非ず、則ち銓擇を爲す能ず」

※兔園…唐の杜嗣先の編によつて、太宗の子のために經書を分りやすく  
解説した書に「兔園冊」というのがある。これより、「兔園」に卑近な書物  
の喩がある。

※稗史…はいし稗官が民間の様子を君主に奏上した記録。

●右蘭軒の語、文は、森立之伊澤蘭軒より

「蘭軒醫談」森立之自序…安政三年、1865、立之50歳

余、天保間を以て相陽ちやうやう(相模國南方)に遊ぶ(禄のないまま暮す、学ぶ)。刀圭とうけい(藥  
の調合)の餘暇に巖嶺に採藥し、谿澗に釣魚するも、性、暑を苦しみ寒  
に怯おびゆ。螢雪の窓下、時に吟詠を事とし、偶々笈たまたまきゆう(書物を背負う竹の  
籠)に探書するに、幼時蘭軒先生に侍するに筆記する所の醫談を得。  
若干條を遂録し、いい加減に記録し冊子と成すも、校字を違れ、抛なちて  
架中かちゆう(書棚)に在り。近日、頻りに傳寫の請有るに因つて、訛あやまりを訂し、

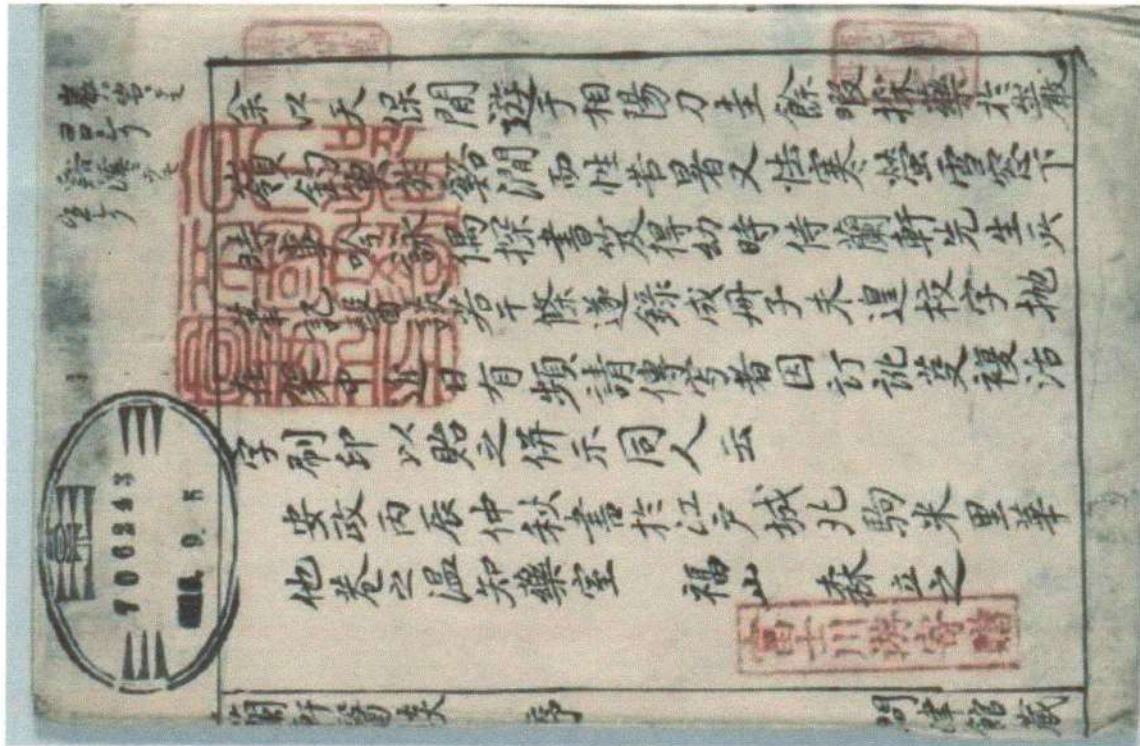
複(重複)<sup>のそ</sup>を芟きて活字に刷印し、以てこれを貽し併せて同人に示すと云ふ。

安政丙辰(三年、1855、立之<sup>の</sup>30歳)、仲秋、江戸城北駒米里(駒込の里)、

華他卷の温知藥室

福山 森立之

森立之自筆『蘭軒醫談』 自序 . . . 京都大学所藏



森立之 大藏省印刷局勤務時代 明治十六、七年頃(七十七、八歳か?)



伊澤蘭軒 藤浪剛一『医家先哲肖像集』所載

